

校友会報

日本大学工学部校友会

第77号

平成26年3月1日

INDEX

- | | | | |
|------------------------------|----|---------------------------|----|
| ● ごあいさつ | 2 | ● 支部活動報告 | 12 |
| ● 平成25年度第56回通常総会報告 | 3 | ● 校友レポート | 16 |
| ● 第33回「母校を訪ねる会」を開催 | 4 | ● 若葉マーク「がんばり記」 | 17 |
| ● 「母校を訪ねる会」三世代表彰 | 6 | ● 北桜祭 | 18 |
| ● 「母校を訪ねる会」校友茶会 | 7 | ● 工学部NEWS | 19 |
| ● 平成25年度「母校を訪ねる会」「同級会」 | 8 | ● 校友会NEWS・寄付者名簿 | 20 |
| ● クラブOB・OG会報告 | 10 | ● 平成26年度版会員名簿発行について | 22 |
| | | ● 通常総会・母校を訪ねる会の案内 | 24 |



平成25年度 第56回通常総会報告

平成25年4月20日(土)、東京都市ヶ谷の日本大学桜門会館にて平成25年度第56回通常総会が開催されました。今回は3年に一度の東京開催ということもあり、関東近郊から大多数の校友が参加されました。また準会員を代表して体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会、応援団の学生数名の参加もありました。

議事は承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決しました。議事終了後に校友会活動功労者への表彰と支部長、支部代表者による活動報告が行われました。総会後には来賓をお招きして懇親会を開催しました。

懇親会では久方ぶりに会う同級生や同じサークルの先輩、後輩など学科、世代を超えた交流がありました。また、懇親会を通じて人脈を拡げることで、仕事面でも役立っている方もいるようです。次回の総会は平成26



年4月26日(土)に開催されます(裏表紙参照)。皆さんも奮ってご参加下さい。

●校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者6名に表彰状、記念品を贈呈しました。

表彰者 (敬称略・表彰順)

所 属	氏 名	学科・回	表彰理由
北海道支部	長谷川 清廣	土14	北海道副支部長を歴任
関東支部	桃溪 謙次郎	土14	支部設立、運営ならびに東京都校友会の活動に尽力
東海支部	川村 智健	土15	東海支部長を歴任
東東海支部	山 梨 徹男	土14	支部設立、発展に尽力
九州支部	石本 元彦	建12	支部発足より理事・幹事を歴任
アカシア教育研究会	関根 敬次	建16	支部設立、後輩育成に尽力



本部校友会より「正会員加入者目録」の授与

平成25年7月5日(金)、水道橋・東京ドームホテルで開催された日本大学校友会役員総会において、田中英壽日本大学理事長・校友会長より学部校友会を代表して手塚公敏工学部校友会長に各学部校友会の「正会員目録」が授与されました。

15ある学部校友会がそれぞれに本部校友会正会員の増員に励んでおりますが、この度、工学部校友会所属の正会員加入数が全学部校友会中第1位となりました。今回の目録の代表授与はそれが評価されたものであります。これもひとえに工学部卒業の皆様のご協力の賜物であり、また母校愛の強さの表れでもあると思われま

す。当会ではそれを「母校を訪ねる会」「課外活動への支援」といった事業の財源として卒業生、在校生への還元に努めております。

皆様には、この実情をご賢察賜り、今後の事業の活性化のために、次年度以降も何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

会報と共にお送りしています「日本大学校友会(本部校友会)正会員ご登録のお願い」にも記載している通り、ご納入いただいた本部校友会正会員費のうち30%は工学部校友会に還付される仕組みとなっております。

す。当会ではそれを「母校を訪ねる会」「課外活動への支援」といった事業の財源として卒業生、在校生への還元に努めております。

皆様には、この実情をご賢察賜り、今後の事業の活性化のために、次年度以降も何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。



「母校を訪ねる会」第33回を開催

第33回「母校を訪ねる会」が、恒例の北桜祭(工学部祭)の最終日に当たる平成25年10月27日(日)に開催されました。今回は、台風の影響による遠方からの参加者の減少が懸念されましたが、当日は、天候にも恵まれ、総勢211名の校友が訪れ、活気あふれる会となりました。

懇親会は、出村克宣学部長、手塚公敏工学部校友会長の挨拶に始まり、第2回目になる三世代表彰では秦様親子が表彰されました。

今回の母校を訪ねる会も、例年同様の盛り上がりを見せ、校友の皆様は、久しぶりの旧友や恩師との再会を喜ば



第33回 母校を訪ねる会(第11回・昭和38年卒) 平成25年10月27日



第33回 母校を訪ねる会(第21回・昭和48年卒) 平成25年10月27日

れておりました。参加された校友の皆様の中には、昔のキャンパス風景とは様変わりしたキャンパスに驚かれた方もいらっしゃったようです。

今年度も、毎回好評を頂いている校友茶会を開催させていただき、茶道同好会の学生が協力する中、たくさんの校友の皆様がお茶を堪能されました。

台風の心配もありましたが、参加された皆様が満足げにお帰りになる姿を見て、無事に開催できたことを嬉しく思いました。

今回は、12回、22回、32回、42回、52回卒の皆様が対象学年となっております。ぜひ、多数のご参加をお待ち申し上げます。



第33回 母校を訪ねる会(第31回・昭和58年卒) 平成25年10月27日



第33回 母校を訪ねる会(第41回・平成5年卒、第51回・平成15年卒、他) 平成25年10月27日

「母校を訪ねる会」三世代表彰



昨年度に引き続き「母校を訪ねる会」懇親会にて工学部を三世代に渡りご卒業された校友をお招きし表彰式を執り行いました。

この度選ばれましたのは秦様ご家族です。秦裕様(故人:土6回卒)、毅様(土31回卒)、雅様(土61回卒)のお三方です。当日は毅様、雅様にご出席いただき、校友会からは表彰状と記念品を、工学部からは写真パネルを贈呈しました。



覚えがあります。

卒業後は、郡山に残り土木技師として市役所に勤務し、主に上水道、下水道に携わりました。

私は土木工学科第31回卒業生で、郡山市役所に勤務しております。

息子は、今年の春、土木工学科を卒業しました。在学中から学校や学生のために働くことを希望しており、現在、工学部で事務職としてお世話になっております。

皆様に感謝を申し上げますと共に、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

これからも日本大学工学部が魅力ある大学として発展し、私たち家族のように三世代表彰者がますます増えてくることを願っています。

この表彰に携わって頂きました、学校、校友会の関係者の皆様方に、改めて御礼を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

ごあいさつ

土木31回卒 秦 毅

三世代表彰式へお招き頂き、誠にありがとうございます。また、このように皆様からお祝い頂き、大変光栄に感じております。

父は第二工学部土木工学科第6回卒業生です。群馬県から郡山に来て、最初は寮に入り、その後、下宿暮らしと、当時は何もなくて生活にも大変苦労したと聞いた

「母校を訪ねる会」平成25年10月27日



「母校を訪ねる会」 校友茶会

今年度も母校を訪ねる会にあわせて校友茶会を開催しました。卒業生をはじめたくさんの皆様にお越しいただいたおかげで、例年以上に盛況でありました。また、今回も茶道同好会の学生に茶会の運営を協力してもらいました。卒業生には大変お喜びいただけたようです。



校友茶会に参加して

茶道同好会 機械2年 平野 正峻



平成25年度の校友茶会に昨年に続き参加させて頂き、茶道同好会として大変貴重な経験をさせて頂きました。私達茶道同好会は一昨年から部活を発足し、2年間茶道を御指導頂いております。しかしながら存じ上げない事も多くまだまだ未熟者ですので茶道同好会の指導をして頂いている先生方や先生のお弟子さん、またお知り合いの先生方のお力添えがとても心強く、また来て下さったお客様のおかげで、至らないながらも、お茶会を成功させることができました。茶道同好会一同深く感謝を申し上げます。また、今回の茶会で私達茶道同好会の目標であります、美しくも凛々しいお点前の作法を先生方から拝見させ

て頂き、私共は非常に感激し、また、とても勉強になりました。

さて今年度の校友茶会はいかがだったでしょうか。校友茶会に来て下さったお客様の中にはお茶の作法を尋ねて来られる方もおり、茶道への関心を感じ、非常に嬉しく思いました。また「毎年お茶を楽しみにしているのですよ」と笑顔で声を掛けて頂いた方もおり、次回はさらに上手にお点前が出来るようにより一層練習に励みたいと思いました。

今回校友茶会にいらして頂いたお客様、次回もまたいらしてください。今回の校友茶会よりも2歩も3歩も成長し、少しはまともになったお点前をお見せできる事を約束します。また今回校友茶会にいらして頂けなかったお客様もお久しぶりに会われた御友人や御恩師様とご一緒にごゆっくりとお茶などいかがですか。お話が進みますのは間違いありませんし、本物のお茶を飲むというのもまた貴重な体験だと思われれます。なにより私達茶道同好会としましても多くのお客様にお茶を飲んでいただくことは嬉しい限りです。

最後になりましたが、母校を訪ねる会にお茶会を設けて頂き、また足を運んで下さり、ありがとうございました。

平成25年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

第33回「母校を訪ねる会」に思う

電気11回卒 前田 康久

卒業50年を迎え「母校を訪ねる会」のご案内を頂き参加させて頂きました。

まずは校友会並びに大学ご関係者の各位に厚く御礼申し上げます。

関係各位が卒業生を忘れず何年経ってもこのような会を催して頂く事に深甚な謝意を表します。

久々の郡山行きとあって前日から郡山へ。

当時お世話になった下宿の同年代の子息と深更まで酌み交わしました。



翌日は心配された台風26号も大きく東にずれて福島沖を早くに通り返り、余りにも発展し昔の面影がほとんどない学園構内を散策し在学時代に思いをはせました。

茶道部の皆さんによるお抹茶お点前のサービスを受け、仕上げは出村学部長、手塚校友会長のご挨拶に始まる懇親会を楽しませて頂きました。

また学生生活の中においても懐かしい応援団を見事継承して頂き、演舞を見せて頂きました事には大変感激いたしました。

古希を過ぎても現役の同級生が多く母校を訪ねる会参加はわずか9名でしたが、その後遅れて参加した者に加え10名で場所を変えての電気工学科11回卒業生の同級会で旧交を温める事が出来ました。

フルフルの大変楽しい2日間でした。

それにしても母校の発展に今更ながら驚かされました。この少子化の時代に大勢の新生が入学し、就職難と言われるこの時期に90%後半の就職率を誇る大学はそれほど多くはないと思われまます。

先生方はじめ学校関係者に敬意を表しますと同時に、我々も微力ながらいくらかのお役に立ったのではないかなと些かの自負心を感じております。

私共の50名ほど同級生の内、鬼籍に入られたのは10名弱といまだ大勢が元気ですが今回三世代の表彰を受けられた秦裕さんが鬼籍に入られておられた事を誠に残念に思います。

また元気で母校を訪ねる機会がある事を楽しみにしておりますと共に母校のますますの発展を祈念しております。

大変有難うございました。

『母校を訪ねる会』及び『卒業40周年同級会』に参加して

土木21回卒 杉崎 郡治

『母校を訪ねる会』の前日10月26日に磐梯熱海「ホテル華の湯」で同級会を一年前から渡辺信一君らと幹事会を結成し準備したが、折からの台風来襲のニュースを見ながら幹事仲間で大変心配した。しかし、日頃の行いが善いのか、杞憂に終わりホットした。同級会には北は北海道、西は岡山など遠方からも参加していただいた。

同級会は、私(杉崎)の司会で、渡辺君の開催挨拶で始まり、峠君の作成した『あの頃にタイムスリップ』で当時の卒業アルバムから取った各自の顔を映写比較しながら、近況報告をいただいた。今も髪が黒々、白髪、少し薄い、無い、又、涙ぐむなど様々であったが、直ぐにあの頃の雰囲気に戻れた。最後に応援団長の佐久間君の指揮で校歌を斉唱した。また、幹事にはご苦労様であったが、温泉旅館にもかかわらず、二次会を客室で開催した。まるで下宿か寮に戻ったようであるが、あの頃と違い、健康について語らいながら、体に悪い酒を2時半まで痛飲した御仁もいたようだ。



翌日は、三十数名が『母校を訪ねる会』に出席した。我々が入学した昭和44年は学園紛争真最中で校舎の封鎖もあり、入学試験は郡山駅前、入学式は一ヶ月遅れの桜満開の5月であったこと、今は無い白亜の管理棟も焼け焦げていたことが印象的だった。

入学後は、勉強、運動に明け暮れ、社会人への準備運

動で息をつき励みとし卒業した。卒業に当たって記念アルバムを作成した。大方の校舎は変わっていたが、編集担当者4名で記念写真を撮影した図書館と壁のモニュメントは今も健在で、今日、出席できなかった友人を偲んだ。

懇親会では、40年前当時、助手として指導していただいた高橋迪夫名誉教授、長林久夫教授とも久々に話をする事ができた。君たちは非常に優秀だったと言われたことが嬉しかった。

40年目の同級会

機械21回卒 高原 一啓

1年位前に級友との話の中で、来年は「母校を訪ねる会」の年かと言われ、もう10年近くも経つのか、時の経つのは年と共に早いものだと感じいったものでした。

今年に入って校友会からも同級会開催のアドバイスもあり、前回幹事をやった私をはじめ郡山在住の横田君、堆君、七草木君と同級会の準備に入りました。

今回で同級会は3回目ですが、前2回と同様に市内荒池にある工学部の研修会館でと思い、庶務課へ打診したら現在は閉館しているとのこと。この場所に拘ったのは我々学生時代にこのすぐ隣にある「金山温泉」で、何度もコンパを開いた思い出の場所にもなっていたからでした。閉館により急遽、会場を利便性のよい駅前周辺に決め、多くの級友の参加が望めるように対処した次第です。



同級会前日までは大型アベック台風の影響もあり、九州方面からの航空便が欠航になり、出席が危ぶまれる級友が出るのではないかと心配しましたが、当日は総勢34名で、小野沢元久先生を始め柳沼福夫先生、佐藤光正先生、小川清先生、渡部弘一先生、今村仙治先生、級友では遠くは九州・中国・四国と全国各地から集まりました。その中でも卒業後40年ぶりに会う級友は6名で懐かしさも一入でした。

そして時間と共に会も盛り上がり、各自の近況報告

や卒研で一緒だった仲間と担当の先生を囲み写真に収まったりと、話に花が咲いて予定時間をオーバーして散会となりました。因みに2次会を友人たちの宿泊予定のホテルでやった処、先生を含め20数名になり、これまた盛況でした。

私たちが還暦を過ぎ健康に留意しながら、10年後の50年目の会に参加できることを目標に心身共に鍛えていかなくてはと感じました。

最後に校友会からもご祝儀として金一封頂きまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

30年のタイムマシン

電気31回卒 浜田 進

前回、郡山に来たのが10年前のこの会、あっという間の10年でした。卒業したばかりころは、院生と下宿の後輩もいたので毎年のように来ていたものの、年が経つとともに足は遠のくばかりです。

母校に到着すると、工学部のシンボル、いや、今では新幹線から見える郡山のシンボルとも言える、雄大な風車が出迎えてくれる。正門から見る桜も一瞬にして大きくなったのがわかる。入学式の情景や満開の桜のもとで写真を撮った友の面影がよみがえる。こうして桜並木を通過した私はタイムマシーンにでも乗ったかのように30年前の自分になっていた。



北桜祭といえば、体育館から中庭の通路に展示や露店のテントが並び、かなり賑わっていたものです。所属の電気研究会でも、拾ってきたテレビを修理して売ったりしていました。

しかし、今回はなんだか閑散として華やかな北桜祭ではありません。寂しい思いで校内を散策していると、「(前日までの)台風27号、28号の影響で屋外の展示等を中止する」という内容の掲示を見たときは、なんだか明るい気分になりました。

電気研究会の仲間に見えるのを楽しみに会場へ、「おい、徳永、久しぶり、元気？」と話したものの、会え

たのは10人からいたメンバーのひとりだけ。でも嬉しい。20年目のときはだれもいなかったもんなあ。

「1石毛、2島田、3立石、4徳永、5土門、6中川聖、7中川武、8納米、9橋本、10浜田、11藤崎、12渡辺、40年目はきつと会おうぜ」

桜並木を逆走した私は、30年後の自分に戻ってしまっ

た。帰りみち、4年間お世話になったヤマト無線へ行ってみた。店は「パーツセンターヤマト」になっている。トランジスター、コンデンサーを買って、ラジオを組み立てるなんていう趣味は贅沢だったのだろうか。

新幹線の窓越しに雄大な風車が羽を振って「また来いよ」と言っている。

クラブOB・OG会報告

北桜祭連携企画第18回「あかしや建友会」開催報告

あかしや建友会事務局 柳 啓(建築19回卒)

第18回「あかしや建友会」は、昨年度同様に「北桜祭」と連携して初日の10月26日(土)に70号館(新教室棟)4階7044教室にて開催されました。

当日の天候は、あいにく台風27号、28号の影響で風水害が予期されたことから屋外での舞台や屋台活動等が中止されましたが、その分、屋内での展示・活動等が活発に執り行われておりました。

今回は、出村克宣工学部長をお迎えし、開会の挨拶を賜るとともに、恩師小栗治男先生、橋本寛先生、渡澤正典先生がご臨席され、参加者は総勢23名でした。

第18回「あかしや建友会」の主要行事(講演会)は、後述しますように本学建築学科のお二人の先生をお招きすると共に立山創一君(建築29回卒)、本会会長の浦憲親先輩(建築18回卒)から構造・材料関係のお話をいただきました。

とりわけ野内先生のお話の中で構造力学(撓角法など)、応用力学の数式がスクリーンに映し出されるなどして昭和40年代に故倉田博、故黒田浩二両先生から教わった講義内容を髣髴とさせる内容でありました。



また、Sanjay PAREEK先生からは、オランダと郡山は、歴史を辿ると「安積疎水の計画・設計(ファン・ドールン土木技師)」を通じて結ばれているとのお話を交え、オランダのTU Delft(デルフト工科大学)、アメリカのMIT(マサチューセッツ工科大学)での留学体験を予

定した時間を大幅に超過して語っていただきました。

講演会終了後は55号館スカイレストランにて懇親会が開催されました。開会前に、手塚工学部校友会会長から挨拶を賜り、本会顧問の渡澤正典先生の乾杯により開会、歓談となりました。歓談の中では、毎年12月に開催される工学部学術研究報告会への発表者を募る提案等があり、その場の勢いで、筆者も含め数名が応募をすることとした次第です。

その後、参会者全員による近況報告が行われ、来年の再会を約して閉会となりました。

●講演テーマ

「パソコンの大規模高速化と構造物の極限開発」

本学建築学科 准教授 野内英治先生

「オランダ・アメリカへ長期海外出張とコンクリートの最新研究動向」

本学建築学科 准教授 Sanjay PAREEK先生

「最近の建築材料の話題-主にコンクリートを中心として-」

(株)安藤・間 技術研究所 担当部長 立山創一氏

「土壁用の材料に関わる話題(2)」

金沢工業大学 教授 浦憲親先生

スキー部創部50周年記念事業 現役スキー部員を励ます会

建築30回卒 丸山 仁

日本大学工学部体育会スキー部は昭和41年に体育会スキー部として正式に発足しましたが、発足2年前より既に同好会として活動していたことから平成26年が創部50周年に当たります。50周年を迎えるにあたり、今回の現役部員を励ます会の他、2014年3月には記念スキー大会を、続く5月には記念式典をそれぞれ記念事業として計画しております。

以下に2013年10月26日に開催した現役部員を励ます会についてご報告いたします。

当日は本州縦断の予報の出ていた台風27号の影響で間際まで開催は危ぶまれましたが、50周年記念事業を祝うかのごとく急激に進路変更したおかげで、19名のOBが郡山に集合し現役13名を励ます会は予定通り16時30分より郡山ビューホテルアネックスにて執り行われました。



現役、OBが4つの円卓にそれぞれ着席し、記念事業実行委員より出席のお礼と現役部員に対する今後の期待が述べられ、乾杯の発声で会はスタート。

現役との歓談の傍らOBの方々は自席から他のテーブルに移り、旧友との懐かしい思い出話に花が咲き賑やかになっていくなか、事前に寄せられたOB各自の紹介コメントの披露と共に数名の方には直接コメントを頂きながら参加OBの紹介が始まりました。

その後、現役部員の紹介と活動状況の報告があり、現在は基礎スキーが中心でアルペンやディスタンスなどの競技には参加していない事が紹介されました。

現役部員からの報告の後、OBからは活動支援金を、ご来賓の手塚校友会会長からはご祝辞とお祝いを、また、伊藤体育会副委員長からはご挨拶をそれぞれ頂戴し、現役部員の更なる活躍を祈念いたしました。

その後、応援団深野監督と団員の方々による校歌とスキー部へのエールにより、出席者全員が感動に浸る瞬間をむかえました。

中締めの後、現役OB全員が二次会に参加。夜も更けるなか別れを惜しみつつ現役部員を励ます会は終了いたしました。

「自動車部の皆から愛されたウーズレー」

自動車部OB会会長 電気15回卒 高橋 潔

自動車部には長年部員やOBが大切にきて来たウーズレーという車があります。その車がこの度、石川県小松市の日本自動車博物館に寄贈されることになりました。ウーズレーと別れるにあたってウーズレーと自動車部の歩みをお話ししたいと思います。

昭和31年にはすでに自動車部がありました。昭和33年前後にイギリス車ウーズレー4/44、1250cc(1952年～1956年)を入札で新潟のNHK放送局から購入したそうです。以来、自動車部OB会所有のマスコット車として今日までの歴史を歩んできました。昭和34年頃には部の活動として「第1回東北一周遠征」を企画して、ウーズレーもともに参加したそうです。又、東北学自連が毎年行っていた「ラリー」にも参加し、東北大学のイギ

リス車ローバーとトップ争いをしたそうです。私は昭和38年に入部し、1年生でその東北学自連ラリーに、チェックポイントの競技委員として駆り出されタタミを引いたトラックの荷台に乗せられ、日光の山奥にまで連れて行かれるという経験をしました。その日光の峠の朝もやをつけて走ってきたウーズレーの勇姿は今でも目に残っています。



ウーズレーは自動車部、OBと共に今年で58年の歳月を歩んできました。この間何度か故障して動かなくなったことがありました。例えば昭和40年の時は東京に在った日英自動車まで部のトラックで搬送して、3年生を中心に2年生も手伝い電気系統を一新したりエンジンのオーバーホールをしたり等の整備をしました。さらに、床も破れていたのこちらは群馬県高崎市にあった大洋ボデーできれいに補修しました。この二つの会社にはOBが勤務していたりオーナーとして経営されていた関係で整備補修をお願いしました。又、平成19年にはウーズレーが突然に動かなくなりました。部員がガレージのリフトで4輪を浮かせてた状態でエンジンをかけてギヤを入れクラッチをつないでみたところ、プロペラレシャフトまでは動力が伝わっていることが分かったそうです。しかし、ドライブシャフトは回っていなかったということだったそうです。その後、OBの経営している(有)ヤマ自動車部品を取り寄せ修理を行い走行できるようになったのです。

このように各世代の部員とOBが力を合わせて守ってきたウーズレーが平成24年の秋にホコリだらけで見る影もなく淋しそうにガレージに置かれている姿を見て「何とかしなくては…」と、全国のOB、OGに「ウーズレーの将来についてどのように考えるか」のアンケートをとった結果、寄贈と決まりました。寄贈先も石川県小松市にある「日本自動車博物館」に決まりました。寄贈する日には自動車部としてもお別れのセレモニーを考えていたところ、工学部と校友会で送別のセレモニーをして頂けることになりました。OB、OG一同、思いがけない企画に心から感謝申し上げます。

支部活動報告

北海道支部活動報告

建築25回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会である第40回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会は平成25年8月9日(金)、札幌センチュリーホテルにて50余名の参加者を経て開催されました。工学部校友会より手塚会長、工学部より出村学部長と三ツ井事務局長のご臨席を賜りました。今回は、まず工学部校友会の総会、そして集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。懇親会では、工学部の現状を出村学部長に報告頂きました。

震災後の学部状況、郡山の状況、今年度の学部入学者が増加したこと、また、臨床工学師課程が始まり就職先の開拓、工学部の耐震補強状況など事細かく報告を頂きました。

また震災に対して学部で何ができるか？また何をしなければ成らないかとのお話しを頂きました。我々卒業生が、これから、何に携われるか？考えなければ成らないと思いました。

東日本震災後の北海道も建築土木に従事する作業員の不足の状態がかなり続いています。郡山での学生生活を思い出し、みんな元気を出して、これを乗り切り、元気いっぱい再会を誓い日本大学の絆を、そして日本人の絆を又深める一日となり、ご来賓の皆様方とともに屋上の回転展望台での二次会へと繰り出しました。



26年度は工学部北海道支部の同窓会総会及び懇親会に、地方支会の方々が参加できるように4月の第3週に行いたいと思います。又、昨年は全国の各支部からの40周年記念の祝電または、お祝いの言葉をいただき大変ありがとうございました。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東支部活動報告

土木17回卒 関東支部長 盛武 建二

平成25年の関東支部事業の活動は次の通りです。

- 平成25年7月 長野県校友会総会(松本市)
- 平成25年8月 関東支部役員会(東京)
- 平成25年10月 栃木県校友会総会(宇都宮市)
- 平成25年11月 工学部体育会総会(郡山市)
- 平成25年12月 東京都校友会総会(品川)

関東支部は1都8県の校友会で組織されており、東京都校友会、栃木県校友会、長野県校友会は毎年総会を行っており、神奈川県校友会や他の校友会は1年ごとに総会を行っています。

平成25年8月に実施した関東支部役員会では、1都8県校友会に工学部交付金を配布し、校友会活動の活発化と日本大学校友会正会員の募集をお願いしております。

また、関東支部役員は、関東支部管内で行う日本大学校友会東京都第一支部総会、日本大学校友会千葉県支部総会など、日本大学校友会の東京都及び各県の支部総会に参加して、他の学部校友との意見交換を行っています。

北陸支部活動報告

土木22回卒 北陸支部長 岩名 涼

校友諸兄には、益々活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年度の主な活動は、7月27日(土)に新潟東映ホテルにて「第13回定時総会」を開催しました。

今年度で北陸支部設立以来14年目を迎え、会員数も178名(富山会員2名)と当初の約2倍になり、これも会員の皆の活動の賜物だと感謝申し上げます。特に若い人の入会が目立ち今後の支部活動が期待されています。今回は40名程の出席で本部から、手塚会長、アカシア教育研究会から久保田新潟県支部長の出席を賜り有意義な開催となりました。また懇親会では、毎年恒例となりました父母会高野新潟県支部長他5名の参加で和氣藹々としたなか日大校歌斉唱等で大変盛り上がり終了しました。

手塚会長からは、工学部入学生が、大震災の影響もあり減少傾向にあった中、今年度は震災前の数の新入生を迎え入れることが出来たとの話があり、母校にと

って大変喜ばしい事だと思いました。

また、9月28日には「懇親ゴルフ大会」をフォレストゴルフ倶楽部にて参加者が今年は4組で行い、事務局次長の本間一弥さんが優勝し、おおいに懇親を深めました。



その他、年に3回程度の役員会を開催し、校友会正会員の入会者の勧誘の検討、支部活動経費の節減、総会参加者増員の検討等を主な議題とし活動してきました。特に今年は、正会員の勧誘を積極的に行い、さらに5名程度増員したいと考えています。また、新潟桜門会、アカシア教育研究会総会および校友会本部主催の会合への積極的参加や、富山県校友会とのコミュニケーションをとりながら活動していきたいと思っています。

来年度も北陸支部の校友との連携を中心に、工学部の今後の発展のため邁進していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願い申し上げます、活動報告と致します。

東海支部報告

土木19回卒 東海支部副支部長 川口 幸三

校友諸兄には、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

第41回(平成25年度)東海支部総会を7月19日に名古屋東急ホテルにて参加者約40名で開催致しました。

来賓として学部から土木工学科の渡邊英彦教授及び校友会から鈴木恒雄副会長にご出席頂き、学部及び校友会の近況等をご報告いただき、学部の様子を懐かしく伺うことができました。

議事の活動報告、会計報告等、承認され、講演会に移りました。

講演会は、名古屋を中心に活動されているタレントで女性講談師の古池鱗林先生に名古屋ゆかりの「太閤記」の一席で大変楽しい講演でした。

その後の懇親会にも古池鱗林さんにも参加いただき、和気藹々のうちに校友の親交を深めることができました。



また、11月29日には早々と30名余の参加者で忘年会を開催し、元気で再会することを誓い合い散会いたしました。

当支部の総会等の参加者に若い校友が少ないことが課題であり、先輩の経験から多くを学ぶこともできることを思いますと、校友の情報を共有しながら校友の『絆』をより深めていきたいと思っています。

東東海支部(静岡アカシア会)活動報告

土木42回卒 細野 剛

待望の母校訪問を控え、天気予報は、強い勢力の台風27・28号の接近に伴う、荒れ模様という最悪の予報…。

一時は、旅の中止も考えましたが、我々の母校を慕う気持ちが通じたのか、台風は徐々に進路を変え、何とか無事に、静岡アカシア会の「母校を訪ねる会」をスタートすることができました。

郡山に到着後は、早速、工学部周辺に出向き、今回、会員の誰もが楽しみにしていた定食屋さんを訪ね、懐かしの大盛りご飯の定食に舌鼓を打ちつつ、学生時代には、あまり感じる事がなかった満腹感に、過ぎた年月を痛感しながら、昔話に華を咲かせました。

その後は、皆、はち切れんばかりの満腹腹を抱え、紅葉真っ盛りの裏磐梯・五色沼へ向かい、久しぶりの東北の秋景色を堪能してまいりました。

夕方からは、再び郡山駅前に戻り、手塚校友会長をはじめ、土木工学科の長林教授、永田特任教授のご出席、また、現役の学生の皆さんも参加し、和気藹々とした宴の時を過ごすことができました。皆様には、ご多忙のところ、我々を温かく迎えていただき、大変感謝しております。

学生の皆さんには、ほろ酔い気分の先輩の戯言が、多少退屈であったかと思いますが、これも、常日頃、工学部の後輩達を気に掛けている静岡アカシア会の「愛情」の表れとして、ご勘弁いただければと思います。

楽しかった郡山の夜は、あっという間に過ぎ、我々は前夜の疲れを多分に引きずりながら、「母校を訪ねる会」に出席させていただきました。



前出の台風の影響で、北桜祭の出店は早々に中止が決定され、少々寂しい感じではありましたが、学食で行われた式典においては、皆、各々の恩師や旧友との再会、昔と変わらぬ学食の豚汁の味に大感激した次第です。

その後も、見違えるほど新しくなったキャンパス内や、お世話になった下宿への訪問など、少し慌ただしい時を過ごし、日の暮れる前には、翌日からの現実の世界に戻るために郡山を発ちました。

しかし、帰りの東北新幹線が、宇都宮を過ぎた頃に、突然緊急停車し、暫しの立往生…。これも、我々の工学部や郡山のまちへの名残惜しい気持ちが、形を変えて表れたのかもしれません。

また、何年後かに静岡アカシア会として、第2の故郷「郡山」の地を訪れる日を楽しみにしております。

四国支部活動報告

建築33回卒 四国支部事務局長 藪内 清二

平成25年度四国支部総会は、平成25年8月17日に校友会より手塚会長をお迎えして、四国4県より校友29名の出席のもと開催されました。会場は月例会「一木会」の会場でもある居酒屋「はんぶん」(香川県高松市)で、ここでは松波清武氏(土木13回卒)の描かれた絵画も、楽しむことが出来ました。

六車支部長(土木16回卒)を議長として総会を終え、東北大震災で被災され香川へ戻られた白井康司氏(電気22回卒、応援団長)のエールのもと校歌を歌い、盛会の内に懇親会を閉じました。四国支部各県校友会の活動としては、愛媛県校友会が平成25年11月2日に校友15名の参加で開催され、香川県校友会が26年春頃、高知県と徳島県の校友会についても開催を計画しております。毎月第一木曜日の月例会「一木会」ですが、本年度は

校友会本部より紹介の伊藤勇氏(建築19回卒)、先の白井氏、栗岡常昭氏(土木19回卒)、徳島県よりご参加下さる丸浦誠氏(建築14回卒)と出席者が増え“絆”をより太くする事が出来ました。キーワードは“郡山”ですぐに仲間になれますので、ぜひ気楽にお立寄り下さい。



九州支部活動報告

建築29回卒 九州支部長 脇山 亨治

第33回日本大学工学部校友会九州支部総会を平成25年10月18日(金)に、福岡市中央区の「平和楼本店」にて開催いたしました。

東北の震災後の復興もそろそろ本格的にスタートする時期に本年4月からの消費税3%アップ、東京オリンピックの招致やアベノミクスの効果のおかげか大手企業では増収増益もあるようですが、一部の資材高騰のほかはまだまだデフレ感覚が続き、中小企業の給与のアップにまでは届かないようなアンバランスな好景気のような気がします。



今年度の総会の参加者は昨年度の半分近い二十余名ということになりました。忙しい中でも遠く長崎や熊本から駆けつけていただいたり、昨年3月に建築科を卒業したばかりの北島光季くんも参加してもらい幅広い年齢層での親睦が図れました。

工学部からは手塚工学部校友会会長に参加してい

ただき郡山の現況や工学部の動向、日大全体の事などお話しいただきました。特に校友会正会員の増員は力説でした！

今年度は39年建築卒業の石本元彦先輩が校友会の功勞表彰を受けられたのでその報告と予算・決算・行事関係などの承認を取り、総会も無事終わることが出来ました。

九州支部も他の支部と同様に高齢化も進み若手の掘り出しに取り組んでおります

工科系の大学も増えたせいか九州から郡山まで受験していく人も少なくなっているのか？卒業して就職は九州以外に行って戻ってこないのか？卒業名簿より総会案内を出してもなかなか戻ってこないのが現状です。よって当然の事ながら年会費などにも影響が出て厳しい予算での運営になっております。

毎月第3木曜日の18:30～20:30まで福岡市の中心、福岡市中央区天神の「平和楼」と言う店で「アカシア会」を行っております。

参加は自由で毎月6～10名ほどで学生時代の思い出や様々な相談ごとなど和気藹々の2時間を過ごしています。

工学部各学科の新卒や転職で九州に戻られる方がいらっしゃれば就職の相談とかも声をかけてください。郡山の工学部校友会でも九州支部でもOKです。

今後とも校友会発展の為、九州支部も頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

アカシア教育研究会 山形県支部 設立総会・懇親会報告

アカシア教育研究会山形県支部事務局

工化33回卒 阿部 英敏

建築45回卒 油井 敏和

土木47回卒 小林 道雄

10月19日(土)、「アカシア教育研究会山形県支部設立総会」を開催いたしました。ご多忙の中、来賓として工学部より出村克宣学部長、学務担当の土木工学科長林久夫教授、アカシア教育研究会より関根敬次会長、永田進特任教授からご臨席いただくことができ感謝申し上げます。来賓の皆様からご挨拶をいただき、母校の様子やアカシア教育研究会の歴史や主旨のお話を聞くことができ、同窓の"絆"を感じる楽しい時間を過ごすことができました。

総会においては、菅原和明(山形県立寒河江工業高校校長・電気26回)先生が満場一致で選出され、快く支部長を引き受けていただきました。また、今後の活動として

(1)日本大学工学部卒業生の教員相互が連携し、交流を深めるための取り組みを行います。

(2)日本大学工学部を目指す学生の進路実現を応援し協力します。また、生徒の力量向上に資する取り組みを行います。

(3)母校工学部への支援を行うと共に教職を志す本学学生の力量向上に資する取り組みを行います。

以上を確認し、毎年10月に総会並びに交流会を実施するとしました。

その後、懇親会に移り土木工学科長林久夫教授の乾杯の音頭により和やかに会は進み、学生時代、現在の母校の様子の話や情報交換で盛り上がりました。



山形県支部は現在、会員数14名です。少ない会員ですが団結し、母校工学部に優秀な生徒を送るなど母校への支援を確認しました。これからも工学部学生が希望を持ち、それが実現できるよう活動していきたいと考えております。また、会の発足にあたり母校工学部関係の皆様よりご支援をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

〈消息〉

・金井文夫氏(機23回)(埼玉県立浦和工高校長)

平成25年3月をもって定年退職、工業高校教育にご尽力いただきました。今後も母校を応援ください。

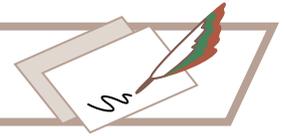
・谷口敏広氏(電26回)

平成25年4月名門・秋田県立横手清陵学院中学・高等学校(旧横手工業高校)校長に就任。

・亀井雅秀氏(機27回)

南富良野町立富良野南中学校校長に御栄転(前富良野市立樹海中学校校長)北の大地でのご活躍を期待しています。





今、ロハスの工学がおもしろい



住環境設計室
日本ブレードパイル協会 代表
建築22回卒 影山 千秋

回転埋設鋼管杭の開発

1995年1月17日阪神淡路大震災、多くの建物、住宅が崩壊し、大勢の方が亡くなった。

地震国 日本の耐震技術はどうした…。という思いから、一般住宅でも使える汎用重機で、無振動、無騒音、残土なしに施工できる鋼管杭を開発、特許と国土交通大臣認定を取得した。

ブレードパイル、そしてbDパイルである。

この技術開発が現在の大学との共同研究に繋るとは夢にも思わず、用途開発、普及にと多くの企業人と出合ってきた。

大学との共同研究

日大工学部が推進する「ロハスの工学」、その中のロハスの家プロジェクトとの関りから、地中熱利用の研究が、ブレードパイル、bDパイルを採用した施主の「地震の時、うちはあまり揺れないよ」という声から、鋼管杭の弾性、靱性を活かした免震基礎の研究が、機械科、建築学科の研究室との共同研究が始まった。

浅部地中熱利用研究

再生可能エネルギーとしての地中熱利用は世界的に見れば、日本はまだ緒に就いたばかりである。普及を阻むのは、高い施工費の、深さ100m前後の熱交換井の掘削である。そこで、建物を支持する鋼管杭を熱交換井に活用出来ないかと考えた。季節変動のある地層の熱エネルギーを利用しようとする、世界の非常識への挑戦である。

免震装置のないSP免震基礎工法

これも世界の非常識である。

しかし、3.11東日本大震災で東北地方1,000棟以上の施工物件で被害はなかった。

地震対策は、耐震よりは制震、制震よりは免震が安全と云われても高額な免震工法は普及していない。SP免震基礎工法は、軟弱地盤対策としての鋼管杭だけ

で免震効果も発揮する工法であり、免震の費用は0である。

研究成果とこれから

再生可能エネルギーの利用は、世界の課題である。その中でも、福島県はまた特別である。

ロハスの家は、1号、2号、3号、実証住宅と建設し、地中熱センター東、西も、多くの興味あるデータ齎している。

新聞、テレビでも取り上げられ、浅部地中熱という言葉も知られてきた。

鋼管杭を使った熱交換井は、地表より30m以浅、10m前後の深度の地層の熱エネルギーでも、100m前後のボアホール型熱交換井と同等以上の効率で利用できることは、ほぼ間違いないことが判った。

この共同研究に対しては、工学部の他、福島県、文科省、他からも研究受託している。

SP免震基礎工法は、免震効率を算定できるまでになり、全国に代理店展開すると同時に更に免震効果を高める工法や、免震効率算定の精度を向上させる研究・実験に学生も参加し、文科省の研究費も交付されている。

これらの技術開発は必ず社会に貢献できると確信するものであり、この研究に参加している学部生、院生には、生きた教育となっている。

学科横断と企業参加の研究開発は、事業化をも目標とするもので、企業のメリットも大きい。

卒業生の皆さん、母校に来てみませんか。

今、ロハスの工学がおもしろいですよ。



「大学院生活を終えて」



大学院電気電子工学専攻
鈴木 亨(電気電子59回卒)

私は平成24年3月に工学部を卒業し、大学院工学研究科電気電子工学専攻へ進学しました。学部、大学院を通じて、超音波工学研究室の田井秀一先生の指導の元で「超音波の音響放射圧を利用した粘弾性体の非接触測定」というテーマを掲げて研究を続けてきました。測定対象の試料に超音波を放射してその放射圧により試料の表面を非接触で振動させます。この振動の仕方が試料の粘りや弾性、密度によって違うという性質を用いて、振動変位の違いから試料の粘りや弾性、さらに密度を求めてみようという内容です。また超音波はただ単に放射しても、音波のもっている力を上手く使うことができません。そこで低周波で振幅変調した超音波を用いることで、正弦波のように試料表面を振動させ、観測と解析を簡単に行えるようにしました。

大学院に進学してからは、1個の超音波スピーカを利用して、超音波音源そのものの指向性により試料を振動させる方法に切り替えました。

図1に、単体の超音波スピーカから放射された音波で濃度の異なる寒天試料表面を非接触で振動させた波形を示します。このグラフからもわかるように、波形の歪みが少なく、しかも正弦波のような振動の仕方をしています。この波形を基にして、試料の弾性率に相当するパラメータを解析した結果が図2です。寒天

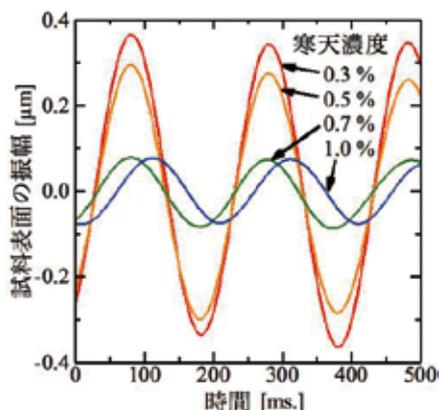


図1 超音波音源で寒天試料表面を振動させたときの波形

濃度が増加すると固まった寒天も硬くなり弾性が増加しますが、解析したパラメータも寒天の濃度の増加とともに大きくなっていくことがわかります。したがっ

て、超音波を利用して、非接触で粘弾性体試料のパラメータの計測が可能であるということがわかりました。またこの音波を用いて試料のパラメータを測定する方法は、液体でも有効であることがこれまでの研究によってわかっています。

このような研究の成果を上げることができたのも、学内、学外の研究報告会に出席して成果を発表するという目標があったからだと思います。大学院在学中は日本音響学会の研究報告会へ出席し、発表を行いました。学会では超音波を含め、音響は扱っている分野が広く、自分の行っている研究以外の研究に触れることも、研究への志気を高める大きな刺激となりました。学内の発表では院生の仲間たちの別分野の発表を聞き、自分自身の見聞を広げることができました。さらに研究に対する助言をいつもしてくださった田井秀一准教授の指導のおかげでもあります、ありがとうございました。大学院生活は自分の研究のみならず、研究室に所属する卒研究生の指導や、授業のティーチングアシスタントといった経験もできました。学部在学中に教職課程を履修した経験を生かして指導に当たったつもりではありますが、至らない点も多かったと思われます。しかしこの経験は、いかにしてわかりやすく物事を伝えるか、どのようにコミュニケーションをとるかを改めて考えることとなり、今後の人生に役立つ経験となりました。

この4月から、私は美和電気工業(株)の社員になります。社会では机の上の勉強ではなく、実際に働く現場に出て学ぶことが多々あるかと思っています。辛く厳しいことがあるかと思いますが、大学院でコツコツと研究に励んだこと、仲間たちと切磋琢磨しあったことを忘れず、何事にも積極的に、かつ謙虚に取り組んでいきます。失敗も成功もきちんと自分の経験として受け入れ、社会の一員としてしっかり活躍できるように努力していきます。

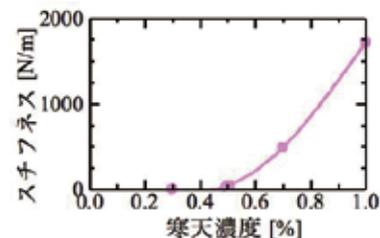


図2 寒天試料の弾性率に相当するパラメータを求めた結果

第63回

北桜祭

平成25年10月26日(土)・27日(日)

平成25年10月26、27日に第63回目となる北桜祭が開催されました。開催前日に日本列島に迫った台風27号、28号の影響で、急遽、屋外のイベントが中止となり、70号館を主会場とした屋内での開催となりました。万が一の事故に備えて屋外イベントの中止を決定した北桜祭実行委員会は英断を下したと思います。

参加した学生は日頃の研究や練習の成果を充分に発揮し、北桜祭を大変盛り上げました。



●学生募集

工学部では「一般入試・AO入試・校友子女入試」等、様々な入学試験制度を設けております。お子さん、お孫さんなど身近に大学入試を控えている方がおりましたら、是非「日本大学工学部」への進学をご検討下さい。

【入学試験に関するお問い合わせ先】

日本大学工学部 入試係

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888

E-mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

※各試験の詳細等については下記ホームページ(工学部入試案内)をご覧ください。

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/nyugaku.html>

●工学部教員定年退職者(平成25年1月～12月)

機械工学科	小川 清	(平成25年3月31日付)
	加藤 康司	(平成25年7月3日付)
電気電子工学科	阿曾 弘具	(平成25年3月31日付)
	上田 剛	(平成25年3月31日付)
	長澤 幸二	(平成25年3月31日付)
情報工学科	白井 健二	(平成25年3月31日付)
	原 靖彦	(平成25年3月31日付)
総合教育	戸次 直明	(平成25年3月31日付)
	柳澤 秀男	(平成25年3月31日付)
	矢部 洋三	(平成25年3月31日付)

●平成25年度課外活動結果一覧

サークル名	大会名	結果
軟式野球部	MIZUNO CUP SSBASEBALL HEROES 2013	1位
ラグビー部	平成25年度第2回福島県7人制ラグビーフットボール大会	2位
射撃部	第31回東北ライフル射撃選手権大会	エアライフル成年男子立射60発競技 2位 近内貴志(機械2年)
		エアライフル成年女子立射40発競技 1位 菊地映美(情報1年)
水泳部	福島県大学対抗春季水泳大会「大沢杯争奪戦」	男子 優勝
		男女総合 優勝
洋弓部	平成25年度福島県学生アーチェリー選手権大会	50m・30mラウンド 2位 安達卓也(電気電子3年) 3位 鬼澤慶弘(機械2年)
		30mWラウンド 1位 芳賀大地(電気電子1年) 2位 山口雄次(機械2年) 3位 歌丸裕彬(生命応用1年)
剣道部	第61回東北学生剣道選手権大会	3位 佐々木直哉(情報3年)
柔道部	第51回郡山市民体育大会柔道競技会	男子団体 3位
	2014福島県柔道選手権大会	3位 村上悠(建築3年)
陸上競技部	田村市ビートル駅伝	優勝
弓道部	第17回東北学生弓道新人戦	3位 多田晶(電気電子1年)
吹奏楽部	吹奏楽コンクール福島県大会	銅賞

●三代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では、10月開催の「母校を訪ねる会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代(祖父母、父母、孫)に渡って卒業した校友をお招きし、表彰しております。

そこで該当されると思われる方は、下記の要領で対象者を募集しますので、どうぞ奮ってご応募下さい。

記

1. 応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り専門部及び第二工学部、工学部を卒業した人(自薦・他薦は問いません)。

※但し、昭和41年4月の学部名改称以前の工学部(現理工学部)の卒業生は含みません。直系にはこだわりません。例:「母方の祖父・父・孫」などでも可。
2. 応募方法 「はがき・FAX・校友会ホームページのお問い合わせフォーム」にて受け付けます。いずれの方法も必ず「3人の氏名・卒業年・卒業学科・連絡先(住所・電話番号)」を明記して下さい。書式は指定しません。
3. 応募締切 平成26年7月25日(金)
4. その他 資格対象者には、後日、ご案内をお送り致します。

●主な校友会の事業

校友会では多岐にわたり次のような事業・支援をしています。

- (1) 入学記念品贈呈
- (2) 校友会功労者の表彰
- (3) 課外活動への資金援助
- (4) 学部祭への支援
- (5) 卒業記念パーティおよび卒業記念品への資金援助
- (6) 校友の学術研究報告会参加支援・学術研究報告会発表者への交通費支援・大学院生への発表支援金

●寄付者ご芳名

渡辺尅孝様(工化13回卒)より寄付金を賜りました。心より御礼申し上げます。

●校友会賞

工学部校友会賞に以下の2名が選ばれました。平成25年度卒業記念パーティーにて、手塚会長より校友会賞として表彰状と副賞の記念品が贈られる予定です。

	氏名(敬称略)
体育会第44代委員長	湯澤 拓也(生命4年)
学術文化サークル連合会第40代委員長	石垣 宏幸(機械4年)

●アカシア文庫への寄贈本寄贈者の紹介

新たに以下の2点を寄贈いただきました。

寄贈物	寄贈者名(敬称略)
『自転車に乗るなら』(CD・全3曲)	森 美佐枝(建23) 「春ちゃんバンド」
『最高の住まいをつくる「間取り」の教科書』	佐川 旭(建24)



日本大学工学部校友会会員通信費寄付者ご芳名(敬称略) 平成25年2月1日～平成26年1月31日

●60回卒	吉田 拓朗	八木 将太郎	三木 康太郎	坂内 俊介	佐藤 垂舞
電気電子	菊地 和平	相澤 宏	柳 隆之	藤原 克樹	白岩 裕樹
情報	諏訪 貴之	阿部 慎也	加藤 清孝	増田 智寛	白土 匠
●61回卒	石橋 和晃	川井 公美子	加藤 直裕	松山 大輝	山際 一輝
土木	幸野 大樹	栗城 勤	小林 雅徳	物質化学 加藤 智久	卵月 康一
	近藤 洋平	栗山 修	小針 真人	黒沢 公威	
	坪倉 新樹	根田 駿	佐藤 佳介	渡邊 大輝	
	秦 雅	佐藤 弘崇	白岩 大地	情報 植木 康平	
	森 和哉	長谷川 昂祐	信田 大知	大賀 則幸	
	森 拓馬	平野 真司	早川 友裕	木下 隆洋	

●課外活動への支援

体育会・学術文化サークル連合会所属の以下の10団体に課外活動支援金の援助を行いました。各サークルから寄せられた感想と今後への意気込みを紹介します。

支援団体からの感想と今後への意気込み(抜粋)

団体名(体育会)	感想
合気道部	講習会や合同稽古に積極的に参加し、各部員の向上に努める。また、合気道の更なる発展のため、部員数を増やす努力をし、活気のある部活動にしたい。
硬式野球部	この度は、支援金の援助をいただきありがとうございます。遠征費の一部として、使用させていただきました。大会での遠征で、宿泊代などの負担が大きく、支援金をいただき、大変ありがたく感謝申し上げます。 次年度以降は、さらなる成績を残せるよう日々精進し、目標である全日本大学野球選手権に出場できるよう頑張っていきます。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。
射撃部	支援金を使い、不足していた弾、標的を購入することができました。ありがとうございます。この度、射撃場も新設されました。これからも、さらなる活躍をするため、練習、大会等に臨んでいきます。
柔道部	この度は支援金を頂き、ありがとうございました。 頂いた支援金は、大会参加費、大会宿泊費、テーピング購入費など多くの場面で使わせて頂きました。おかげさまで、たくさんの大会に出場することができ、結果を残すことができました。今後も、精一杯練習に励み、結果を残していきたいよう、日々精進していきます。
日本拳法部	今回課外活動支援金を頂けたことに感謝申し上げます。部活動をしていくにあたり、欠かすことの出来ない防具代として使用させて頂きました。部が大会に参加するにあたり、どうしても遠征費が重んじてしまう現状があり、必要な備品の購入を躊躇せざるを得ないということが度々起きてしまいます。新しい防具を使うということは、選手のケガの防止にもつながり、より試合や練習に対する意識が高まることにもつながります。 現在、我が部の部員は少しずつではありますが、増加してきています。部員が増えることにより、徐々に練習や大会の試合に対しての盛り上がりが大きくなりつつあります。チームとしては未熟ではありますが、精神面、技術面共にまだまだ大きく伸ばしていけると部員一同はりきっております。今後も、何かしらの結果を残すためにも懸命に練習に励んでいきたいと思っております。
ラグビー部	今回頂いた支援金を使って、試合内容を確認したり、研究・対策を行うためにビデオカメラを購入致しました。結果、前年度より順位を上げ、3位入賞をはたすことができました。来年度はさらに精進し、優勝を目標に練習しています。 また、ビデオカメラは来年度新入生勧誘のためのプロモーションビデオの作製にも役立っています。新入生をより多く獲得し、練習の幅を広げられればと考えています。
ラクロス部	先輩方がつくりあげたこの部の名前に恥じないように日々精進し、いずれ先輩方を超えることを、今の目標とする。

団体名(学術文化サークル連合会)	感想
機械研究会	本サークルの課外活動にご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。 今回の支援金はサークル所有のバンの維持費として任意保険代の一部に充てさせて頂きました。 本年度の最も大きな目標とされている2つの大会を無事に終えることが出来ました。「Hondaエコ マイレージ チャレンジ 全国大会」では、本サークル初の試みとして一般公道を走行している市販車両での参加をいたしました。やはり初の試みとあって車両を作り上げるうえでの不安もありましたが、無事に完走することができました。今後は来年度に向け、車両の細部を煮詰めて行く予定です。更に来年度は、本年度より予算的に余裕ができるので各消耗品の交換を惜しみなく行い、上位入賞を目指していきたいと意気込んでおります。 また「LOVE&PEACE耐久レース」と呼ばれるミニバイクレースで、サークル所有のマシンを使用した大会では5年程使用され続けたマシンで出場しました。5年も使用されたマシンですので、部員たちで時間をかけメンテナンスし車両を仕上げました。こちらも無事に完走することができました。時間と予算の都合で、できるメンテナンスに限りがありました。来年度は上位入賞を狙えるように仕上げしていきたいと意気込んでおります。
写真部	備品のプリンタが故障した事もあり、資金繰りに苦労していましたが、支援金をいただけることになり、大変助かりました。今後は2月25日から3月2日にかけて行われる学外写真展に向けて、部員一同頑張っていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願い致します。
自動車部	今回、支援金を頂くことによって、古くなった工具や壊れてしまった工具、備品を新しくできたので、とても感謝しております。また、今回により、大会出場月の車の整備がきちんと行えるようになり、今後は各大会において多くの入賞を目指していければと思います。今後このような支援金があれば定期的に必要な道具などが買えるようになると思うので、今後ともよろしく願いいたします。

平成26年度版会員名簿発行について

工学部校友会の平成25年度総会において、会員名簿発行の決議がなされました。校友会の重要な事業でありますので、会では直ちに「名簿発行特別委員会」を設け鋭意作業を進めて、平成26年9月には発行する予定であります。

特に最近の社会情勢から、個人情報の保護については慎重に検討を重ねて、「日本大学工学部校友会校友情報の保護と運用に関する規程」を設け、個人情報の保護を図ってまいります。名簿発行を機に規程の主旨を要約致しますと下記枠内に示すとおりであります。

なお、このたび発行する名簿(平成26年度版会員名簿)に使用する個人情報は、会員氏名・会員番号・勤務先

名称・勤務先の電話番号・住所(自宅あるいは連絡先)・住所の電話番号などであります。

会員名簿に、会員氏名・会員番号を除き、勤務先名称・勤務先電話番号・現住所・現住所電話番号などを一括(部分削除は致しません)して記載を望まれない場合は、同封のハガキでご連絡下さい。

また、旧字体の人名、地名文字で出力不可能な文字については、代替文字を使用させていただきます。関係会員の皆様には大変心苦しい処置とは存じますが、現状をご理解いただき、ご了承下さいますようお願い致します。

記

個人情報の取り扱いについて

日本大学工学部校友会

- 1 校友会が保存している個人情報は以下の目的で使用いたします。
校友会が規約に定める目的を達成するための活動をする場合。
具体的には、総会通知・支部関連通知・会費に関する連絡・会員名簿の作成・校友会会報の配布・記念行事等の連絡・同窓会や同級会の通知・会員の求人あるいは求職に関する支援・各種リストの配布など
- 2 個人情報の第三者提供の制限。
校友会が保存している個人情報は、本人の承諾なしに日本大学ならびに校友会関係者以外の第三者に対して、開示や提供をすることはありません。
ただし、法令の規定により、本人及び公衆の生命、健康、財産などの重大なる利益を保護する場合には、例外として情報を開示できるものといたします。
- 3 個人情報の管理について
会員の個人情報は、校友会事務局において管理しています。ただし機能上、一部業務を委託しておりますが、機密保持には万全を尽くすことの確約を得ております。
- 4 個人情報の開示・訂正・削除について
個人情報は、原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

以上

●名簿情報変更の連絡について

名簿の正確さを期するため、情報の内容について変更がある場合には、変更内容を同封のハガキにご記入いただき、来る平成26年5月31日までにご返信下さい。

これ以降は編集作業の都合により、変更ができませんのでご容赦下さい。

校友会会員名簿への広告募集のお知らせ

平成26年度版工学部校友会会員名簿を発行するにあたり、時局柄経済的負担も大きく、手をつくしてその軽減をはかっているところです。

つきましては、前例にならって会員の皆様に広告を掲載していただきたく、下記要項にて広告を募集致します。

記

1 企業・団体・個人等の広告

紙面の広さ	寸法 (縦 × 横) mm	掲載料 (円)
A4 全面	254 × 169	50,000
1/2	127 × 169	30,000
1/4	63.5 × 169	15,000
1/8	63.5 × 84.5	5,000

2 記載内容

記載するものは、公序良俗に反せず、かつ政治的宗教的偏向の無い記事であること。もし掲載に適切を欠く場合は、相談の上推敲するか或いは掲載できないこともあります。

3 原稿の提出

広告の原稿は、文字・写真・絵・図表など白黒一色で作成して、応募者が選定したサイズにおさまるようにデザインをほどこし「完全原稿」にして提出して下さい。

尚、原稿は書面もしくは電子データ(CDなど)で受け付けております。書面の場合は郵送で、電子データの場合は郵送またはEメールでお送り下さい。

4 提出締め切り

編集の都合上、平成26年6月30日で締め切りといたします。

5 広告料の納入

広告料の払い込みは、送付された広告の掲載が決まり次第、改めてご案内いたします。

●会員名簿の頒布について

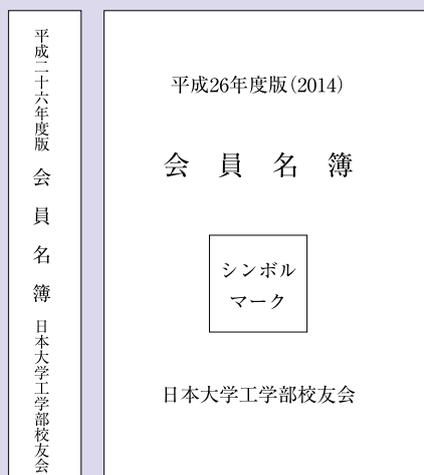
会員名簿は、平成26年8月に完成し、9月には頒布を開始する予定です。頒布方法は、受注・実費の頒布といたします。購入を希望される会員の方は、同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、代金6,000円(送料も含む)をお送り下さい。

頒布は、会員一人につき1冊といたしますので、近時の社会情勢をご賢察の上ご容赦下さい。

また、会員以外の者の不正入手を防止するため、購入申し込み会員の確認をする場合もありますので、その時はご対応よろしくお願い致します。

名簿の姿図

詳細
表紙：ハードカバー
色調 紺
形状：縦 30 cm
横 22 cm
厚さ 5 cm (予想)
ページ数：750 P (予想)



日本大学工学部校友会各位

平成26年3月1日
校友会会長 手塚 公敏

平成26年度 通常総会通知

本会会則第13条により、日本大学工学部校友会平成26年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成26年4月26日(土) 13時より
2. 場 所／日本大学工学部50周年記念館
3. 議 題／ (1) 平成25年度会務報告および決算報告
(2) 平成26年度事業計画および予算審議
(3) 役員改選
(4) その他
- 4 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第34回 母校を訪ねる会

- 日 時／平成26年10月26日(日)
場 所／日本大学工学部50周年記念館
(ハットNE)を予定
対 象／第12回卒業生 (昭和39年3月卒業)
第22回卒業生 (昭和49年3月卒業)
第32回卒業生 (昭和59年3月卒業)
第42回卒業生 (平成6年3月卒業)
第52回卒業生 (平成16年3月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第64回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後50年以上の校友全員も招待対象としています。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第77号



- 発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : <http://www.nichidai-ce-koyukai.com>
- 発 行 部 数 49,000部
発 行 日 平成26年3月1日
発 行 責 任 者 校友会会長 手塚 公敏
編 集 責 任 者 編集委員長 長澤 幸二